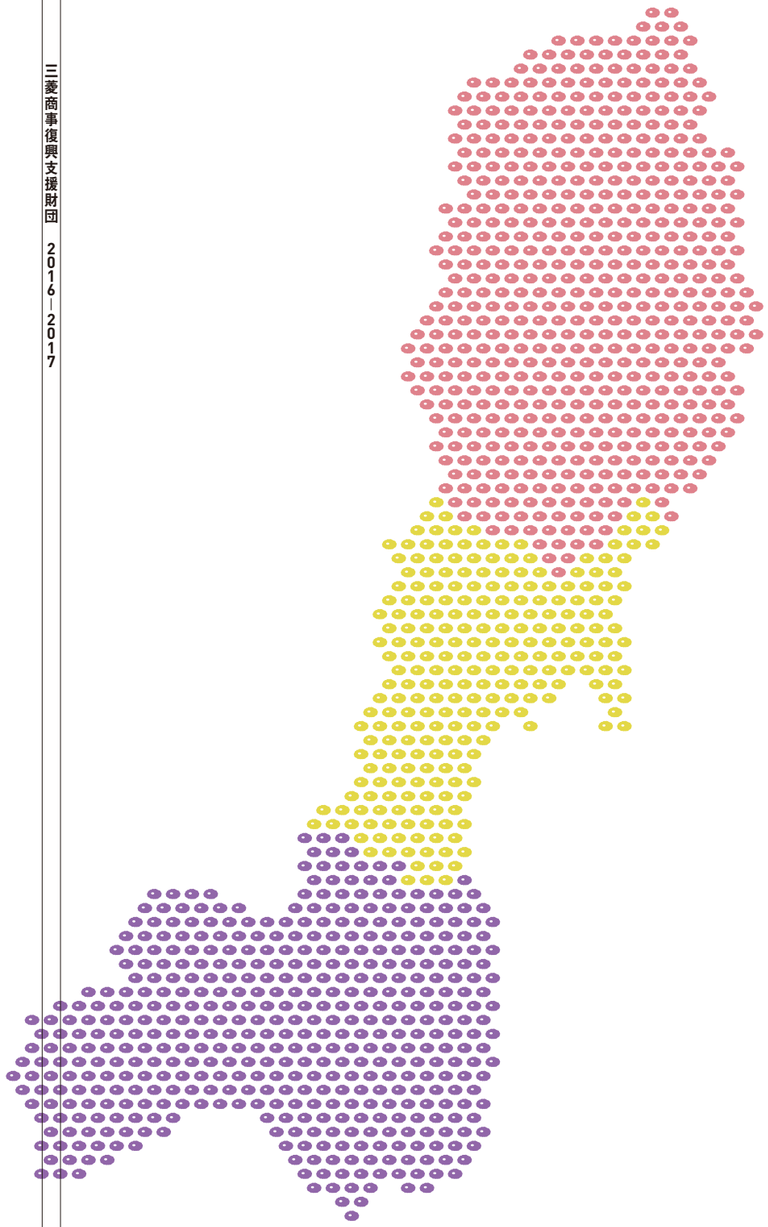
希望のいしずえ

三菱商事復興支援財団　2016－2017



三菱商事復興支援財団

2016－2017

希望のいしずえ

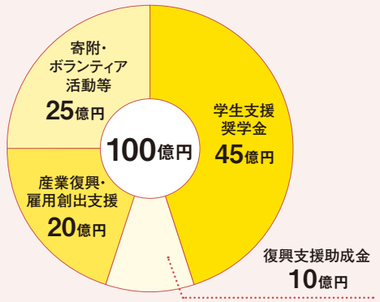
― この言葉に込めた私たちの願い ―

この冊子は三菱商事復興支援財団の2016年度の活動報告です。当財団では、被災地の事業者を対象とした産業復興・雇用創出に対する支援、大学生への奨学金の支給、被災地で活動するNPOなどへの助成を行ってきました。2015年度からは、福島県で果樹農業の6次産業化を支援するためのプロジェクト（ふくしまワイナリープロジェクト）を開始しています。これらの活動は、被災地の未来を担う若者や、被災地の継続的な復興、経済再生の基礎となる地域産業への、いわば“被災地の未来に対する投資”。「希望のいしずえ」という言葉には、当財団による支援が被災地での希望を生む根幹になってほしいという願いを込めています。

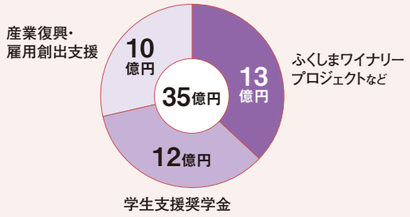
当財団の活動

三菱商事は、2011年3月11日の東日本大震災の復興支援活動のため4年間総額100億円の復興支援基金を創設し、被災した地域の状況やニーズに合わせてさまざまな活動を展開してきました。2012年春には当財団を設立し、被災地の産業復興・雇用創出を目的とした支援を継続しています。2015年度からは5年間分の活動資金として、当財団に対し35億円を追加拠出しました。従来の活動を継続するとともに、福島県郡山市で新たに果樹農業の6次化を支援するワイナリープロジェクト（詳細は18－25頁ご参照）を推進しています。

三菱商事 東日本大震災 復興支援基金（2011－2014年度）



三菱商事復興支援財団（2015年度－）



三菱商事復興支援財団 2016－2017

2 希望のいしずえ
― この言葉に込めた私たちの願い ―

4 産業復興・雇用創出支援 Scheme
被災地の未来に対する投資

6 Interview
漁業生産組合 浜人

10 Topics
2012－2015年度
産業復興・雇用創出支援先のNEWS

18 Fukushima Winery Project
ふくしまワイナリープロジェクト
～果樹農業の6次産業化を支援～

26 社員ボランティアによる支援活動

28 学生支援奨学金受給者の声

30 Facts & Figures
2016年度活動データ

34 2016年度財務報告
賃借対照表

35 三菱商事復興支援財団概要

産業復興・雇用創出支援

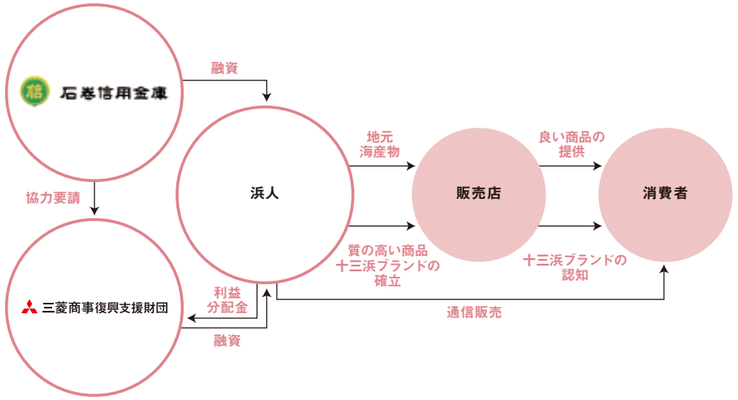
当財団では、被災地の経済再生に向け、産業復興や雇用創出に寄与する取り組みを展開しています。地元金融機関などと協働し、2012年度から2016年度までの5年間に、事業の再建や新規事業の立ち上げを目指す51の事業者への融資を実施しています。

Scheme

被災地の未来に対する投資

産業復興・雇用創出における分野では、金融支援（融資）による活動を行っています。これは返さなくてはならないお金であるが故に生まれる適度な緊張感が、事業の継続を支えていくことに資すると考えたからです。ただし通常の融資とは一線を画し、最長10年の貸付（無利子）を原則としています。その上で、事業が軌道に乗って利益が実現した場合には、その一部を利益分配金として受領しますが、この分配金は財団内部には留保せず、地元自治体や他の復興支援の基金などに寄附したり、被災地での復興支援活動に再利用することを基本方針としています。復興支援基金が被災地で循環する仕組みを整え、地域経済のさらなる自立促進を目指しています。

● **支援事例 漁業生産組合 浜人**（宮城県石巻市）



ラポールヘア・グループ

駅前ストアー

ひろの屋

大地フーズ

協同水産

伊藤商店

仙台秋保醸造所

及新

南三陸町社会福祉協議会

小高ワーカーズベース

海楽荘

キャピタルホテル1000

八木澤商店

会津中央乳業

IIE

什一屋

支援総額
約20.5億円

支援先事業者
51件

漁業生産組合 浜人（はまんと）

“石巻・十三浜から、次世代のための漁業に挑む”

国内でも最高級クラスのワカメを産出する石巻市十三浜。漁業生産組合 浜人の阿部勝太理事は十三浜で、祖父の代からワカメ漁に従事してきました。津波で養殖施設が全壊、漁船も流され、加工場や自宅をも失いながら、三陸の漁業に新しい風を興そうとしている阿部さんに、事業に懸ける思い、今後の抱負などを伺いました。

“逆境を機に、手を取り合いながら、力を合わせていく漁業へ”

―― 浜人は東日本大震災後に設立されましたが、どんな組織ですか。

十三浜も、他の三陸沿岸地域と同様、津波で壊滅的な被害を受けました。しばらくは漁に出られず、再開のめどすら立たない。そんな状況の中、廃業を決意する漁師も少なくありませんでしたが、何とか存続させることを考え、5軒の漁師の家族が一致団結し、力を合わせて立ち上げたのが、漁業生産組合の浜人です。

理事
阿部 勝太

―― 十三浜とは、どんな場所なのでしょう。

十三浜のある三陸沖は、北から寒流の千島海流、南から暖流の黒潮がぶつかり、ノルウェー沖、カナダのニューファンドランド島沖と並び、世界の三大漁場の一つとされています。北上川河口に位置する十三浜は加えて、東北の豊かな森が育むミネラルを含んだ淡水が外洋と混ざり、海藻の育成にとって国内有数の最適な漁場となっています。

―― 十三浜で養殖される海産物の特長は？

肉厚で甘味が強いのがホタテ。特にお勧めは、ワカメです。最大の特長は、まず緑色が濃いこと。そして歯応え。味噌汁に入れて一晩たってもシャキシャキです。ミネラル分も高く、荒い海で育つことから厚みがあり、それでいて軟らか。天ぷらにしてもおいしく食べていただけます。

“6次産業化に取り組み、「十三浜」ブランドを確立していく”

―― 浜人が生産販売しているワカメのこだわりを教えてください。

浜人では保存に必要な最小限の 25 ～ 27%の塩分にとどめることで、ワカメの締まり過ぎと、塩抜きした際の分量減少を防いでいます。また、旬を大切にする一方、年間を通しておいしく食べたいというお客さまのニーズに応えるため、鮮度を極力落とさないように過冷却による冷凍加工を行い、乾燥ワカメについては 32 時間じっくりと低温乾燥させ、うま味を保つよう努めています。

このように品質が高く、おいしいワカメも、これまでは県外で売り出すと「三陸産」とひとくくりにされ、消費者に特長が伝えられないのが現実でした。こだわりの十三浜のワカメを全国の皆さんに知ってほしいという思いから、浜人では「十三浜産ワカメ」と表記して出荷。十三浜のファンを増やしていきたいと思っています。

――財団からの資金は、どのように活用されるのですか。

浜人立ち上げまでの漁師の仕事と言えば、ワカメの場合、養殖からゆで上げ、塩分を含ませて長期保存を効かせる塩蔵まで。今では用途に応じて冷凍、パッキングなどの加工から販売までを一手に担い、6次産業化に取り組んでいます。財団の資金は、新工場建設に活用予定です。ワカメをはじめ加工量を増やし、既存の販売ルートとの関係も良好に維持しながら、ネットによる直販など独自の販路を開拓し、「十三浜」ブランドをしっかりと確立していきたい。そのことが安定した販売価格の確保になり、次世代の若者に漁業への関心を抱かせることになるに違いありません。

―― 今後の抱負を聞かせてください。

小学生の時から祖父や父の背中を見ながら漁を手伝い、継いだのは震災の 3 年前。未曾有の大災害で、精神的に参る部分もありましたが、どうせ漁師を続けるのであれば、自分が楽しいと思える仕事に変えていこうと思うようになりました。震災前は個人個人で動くことが当たり前でしたが、数少ない地元の若手漁師と力を合わせ、笑顔で楽しくやっていけるような新しい漁業の姿をつくり上げていきたい。子どもたちの世代になった時、「震災を境に、漁業は変わっていったんだよね」と言ってもらえるように、頑張っていきたいと思います。

漁業生産組合 浜人（はまんと）		
	設立	2011年11月10日
	所在地	宮城県石巻市北上町十三浜字大指16
	従業員	9名
	当財団からの融資額	200万円
	当財団の主なパートナー	石巻信用金庫

財団からの資金も活用し、地元「十三浜」の海産物の加工から販売までを行う工場を増設。「十三浜」ブランドを確立することで、後継者不足や過疎化など漁業地域の課題解決を目指す。

ハウスでの直売や収穫体験を実施

サンフレッシュ小泉農園（宮城県気仙沼市）

2016年4月から直売を開始しました。2017年1月からは、トマトの収穫体験ができるイベントを始め、第1回には家族連れなど約20人が参加しました。

幼稚園児たちが収穫体験

2期目である2016年度は、各関係機関のご協力の下、前年より収穫量、販売額ともに伸ばすことができました。2017年度は、さらなる利益アップと従業員の作業技術の向上を目指し、より質の良いトマトを皆さんにお届けできるよう頑張っていきたいと思います。

渡邊 春日美さん

「HARIOランプワークファクトリー小高」のランプワーカーの皆さん

オリジナルデザインの商品の一つ

ガラスアクセサリー工房の開所式を開催

小高ワーカーズベース（福島県南相馬市）

2016年6月、ガラスアクセサリー工房「HARIOランプワークファクトリー小高」の開所式を行いました。6人の女性をランプワーカーとして雇用。将来的には、職人の設計・加工技術を向上させ、オリジナルデザインのガラスアクセサリー製作を増やし、小高区における中核事業となることを目標にしています。

耐熱ガラスから作られるかわいらしいアクセサリー。ランプワーカーの制作風景もご覧いただきながら商品をじっくりと選べるお店づくりを心掛けています。

マネージャー **和田 菜子**さん

秋保ワイナリー周辺

甲州100%使用の白ワインを新発売

仙台秋保醸造所（宮城県仙台市）

2016年5月、仙台開催のG7財務大臣・中央銀行総裁会議の歓迎レセプションで、宮城県特産品ブースに試飲コーナーを設け、宮城唯一のワイナリーの商品として人気を集めました。同年12月、甲州100%使用の白ワインを発売。その他、第7回地域再生大賞の優秀賞を受賞しました。

研修の様子

2016年、宮城に2軒目のワイナリーが誕生。秋保ワイナリーは県の支援を受け、県内でブドウ栽培やワイナリー設立を目指す方々の研修所として稼働します。2020年までにワイナリーが5軒になる予定で、地元生産者と連携し、宮城の豊かな食材をPRできるワインツーリズムを行います。

毛利 親房代表

“ウニ牧場”育ちの天然ウニを加工

「北三陸ファクトリー」を開設

ひろの屋（岩手県洋野町）

2016年7月、水産加工場および販売スペースとなる「北三陸ファクトリー」の開所式を開催しました。加工場には海水を5℃以下の温度で水産加工を行える設備を導入。北紫ウニを主力商品に、将来的には東南アジアや北米等へも出荷し、北三陸ブランドの世界ブランド化を目指します。その他、2016年度いわてビジネスイノベーションアワード［岩手県商工会連合会（主管）、岩手県商工会議所連合会、岩手県商工会職員協議会共催］で大賞を受賞しました。

「世界に誇れる洋野町・“ウニ牧場”育ちの北紫ウニ」を通じて生産者と消費者をつなぎ、地域資源の価値を最大限に高め、北三陸地域の産業に携わる若い世代を増やしていきます。

下苧坪 之典代表

ワークショップ

女川駅前「シーパルピア」に移転

アイローカル（宮城県女川町）

2016年8月、仙台のロフトでインテリアせっけんのワークショップを開催。1時間程度の体験型手作りせっけん教室に約20名が参加しました。また、12月には、女川駅前の商業施設「シーパルピア」の開業1周年に合わせ、工房兼直営店舗を同施設へ移転しました。

「シーパルピア」に移転し、お客さまでにぎわう店内

町の復興に伴って、新しい店舗での営業が始まりました。
これからが本当のスタート！
地域の素材を使ったせっけんを、もっと広めていきたいと思います。

厨 勝義代表

気仙沼市へ「ラポールヘア」を初出店

ラポールヘア・グループ（宮城県石巻市）

2016年9月、宮城県仙台市の災害復興公営住宅や集団移転先として開発中の荒井地区に出店。美容師4名、保育士2名を雇用しました。10月には南富山店（富山県富山市）、北久里浜店（神奈川県横須賀市）、11月には気仙沼市へ初出店しました。

気仙沼店外観

スタッフの皆さん

2016年は、直営店1店舗、FC店5店舗の計6店舗を開業し、グループとして新たに40名の雇用を受け入れ、全体で120名の雇用創出となりました。引き続き地方の社会的課題解決に貢献していきたいと思います。

早瀬 渉代表

進水式の様子

震災後9隻目の進水式を実施

ヤマニシ（宮城県石巻市）

2016年10月、震災後9隻目、貨物船等の大型船では5隻目となるRORO貨物船「玄武」（7,971トン。広島県呉市の海運会社が発注）の進水式を実施。従業員や関係者約400名が参加しました。

工場復旧から数年が経過し、作業環境も整いつつある中、船を造る人々の意識の復興や改革が大きく進んだと実感しています。今後さらに企業力を向上させ、高品質の船造りに取り組んでいきたいと思います。

生産部船体課長 **畑 貴諭**さん

「きのこの駅」をオープン

長根商店（岩手県洋野町）

2016年10月、種市産直店に、三陸あわびたけの串揚げや本しめじうどん等が食べられる「きのこの駅」をオープンしました。

たねいち産直ふれあい広場

「自然と共に」をモットーに、食を通して自然や風土を多くの方に知っていただき、同時に食材の良さも実感していただくことを目標に掲げています。気軽に立ち寄れ、たくさんの皆さまに喜んでもらえるような場所として、スタッフ一同頑張ります。

取締役 **長根 和子**さん

新センターハウス

新たなセンターハウスが完成

あすびと福島（福島県南相馬市）

2016年11月、あすびと福島の本拠、南相馬ソーラー・アグリパークに新たなセンターハウスが完成し、開所式を開催。完成したセンターハウスは約330平方メートルの平屋で、二つの研修室と階段ラウンジ、キッチンなどを備えています。福島の復興を担う人材育成の一環として、福島県内の高校生と共に2015年4月に創刊した「高校生が伝えるふくしま食べる通信」は第5～8号を発行。創刊メンバー4名が卒業し、編集部には2年生3名と1年生3名が新たに加わりました。

取材する高校生の様子

食べる通信は、先輩の志を継ぎ、代替わりしながらも2年目をやり遂げました。編集部の高校生たちは、生産者さんの取材や原稿作成を通じて、しっかりと成長を続けています。

高校生が伝えるふくしま食べる通信　事務局長　**椎根 里奈**さん（左）
南相馬ソーラー・アグリパーク　体験リーダー　**沖沢 真理子**さん（右）

年間平均稼働率80%を突破

気仙沼地域エネルギー開発（宮城県気仙沼市）

木質バイオマスガス化プラントの年間平均稼働率が、2016年度は80%を突破。国内外から多数の見学者を受け入れました。一方、地元木材供給の礎となる林業研修はこれまでに12期500名以上が受講。地域おこし協力隊2名と、さらに地域林業活性化を図ります。2016年度東北再生可能エネルギー利活用大賞を受賞しました。

2016年度は約50組350人の見学を受け入れ

林業研修には若手の参加者が増えてきた

幾多の困難を越えて、安定稼働に至りました。プラント業務従事者の8割がUIJターンですが、森林整備に基づく燃料材（間伐材）調達の仕組みにも、さらに若手移住者が加わり、ますます地域林業が盛り上がっていきそうです。

小野寺 誠専務

女川町の町長に完成したギターを手渡す梶屋社長

町長による演奏も披露された

第1弾モデル「SWOOD」の発売を開始

セッショナブル（宮城県女川町）

2016年12月、製造する国産エレキギターブランド「QUESTREL」（ケストレル）の第1弾モデル「SWOOD」（世界的工業デザイナー奥山清行氏がデザイン）の正式受注を記念し、第1号機納品式を開催。須田善明女川町長への納品に合わせ、ギターセッションを開催し、「SWOOD」の音を初披露しました。

新たな顧客価値を提案できる製品作りを心掛けています。使い手にとって何が価値かということを日々思考し、製造技術を高めていきたいと思います。

製造担当　**川﨑 成将**さん

「醤油の学校」を開催

八木澤商店（岩手県陸前高田市）

2017年3月、東京・神楽坂の「la kagu」で、ワークショップ「醤油の学校」を開催。参加者は、醤油の仕込みやバター醤油ご飯の試食などを楽しみながら、醤油造りについて学びました。

ワークショップの様子

料理人山田英季さんと八木澤商店の河野社長が先生を務めた

今年から醤油の学校を始めました。第1回目は「Myしょうゆ作り」です。調味料を買うのではなく自ら作ることで、今までにないお醤油の楽しみ方ができます。

加藤 千晶さん

支援先への側面支援

支援先に対しては、
三菱商事グループのネットワークを
活用するなどして、販路開拓などの
営業支援を行っています。

Topic 01

復興庁の専門家派遣制度を活用

2016年度は、復興庁の専門家派遣制度を活用させていただき、支援先６事業者（IIE、紬、宝来館、アイローカル、セッショナブル、長根商店）に対し、経営サポートを行いました。

視察および面談の様子

チームディスカッションの様子

Topic 02

プロボノを実施

2016年６月、プロボノ（職務スキルを活用したボランティア活動）を実施。支援先３事業者（あんしん生活、みちさき、会津中央乳業）に対し、三菱商事グループの社員がヒアリングとディスカッションを行い、チームで整理・分析することで、各事業者の抱える課題を明確にし、改善のために必要な打ち手を提案しました。

Topic 03

物産展や見本市の提案

物産展や見本市への参加提案も行いました。2016年７月のイオン仙台店の物産展には、支援先７事業者（旭屋、会津中央乳業、大地フーズ、協働マネジメント、アイローカル、ゼライス、GRA）が参加。2016年９月に福島県郡山市で開催された東北イオン会合同見本市には、８事業者（しらかわ五葉倶楽部、協働マネジメント、会津中央乳業、及川商店、GRA、長根商店、旭屋、大地フーズ）が出展しました。

各社のブースの様子

Fukushima Winery Project

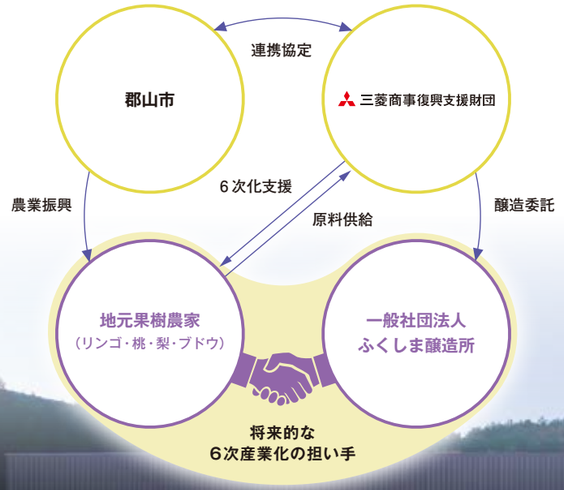
ふくしまワイナリープロジェクト

～果樹農業の６次産業化を支援～

当財団は2015年より、福島県の果樹農業の６次産業化を支援する「ふくしまワイナリープロジェクト」に取り組んでいます。郡山市逢瀬町に建設した「ふくしま逢瀬ワイナリー」で、2016年にはリキュールの生産を始め、ワインショップをオープンしました。

ふくしまワイナリープロジェクトは、福島県の特産品である果物の生産から加工、販売までを一体的に運営する新たな事業モデルを構築し、農産物や地元ブランドの付加価値向上を目指すもの。福島県産のリンゴや桃、梨、ブドウを原料に、ふくしま逢瀬ワイナリーでワインやリキュールなどを生産する一方、新たにワイン用ブドウの生産を開始する農家を支援していきます。

●事業の全体像



●６次産業化モデルの確立へ

１次産業　生産
生食用果実の利活用を図るとともに、
新たにワイン用ブドウの生産農家を育成する

×

２次産業　加工
地元の果実を原料とした
加工商品（ワイン・リキュールなど）を製造する

×

３次産業　販売
醸造された加工商品の販路を
開拓する

＝

６次産業
生産・加工・販売を一体化し、
農産物や地元ブランドの付加価値を高め、
雇用創出や地域経済の活性化を促進する

OUSE WINERY Fukushima

ふくしま逢瀬ワイナリーに ワインショップがオープン

「ふくしま逢瀬ワイナリー」（敷地面積約9,000平方メートル。建物は鉄骨平屋建て約1,400平方メートル、醸造タンク総容量40,000リットル）は、2016年11月26日、ワイナリー内にワインショップを開設し、営業を開始しました。自社商品の他、当財団の産業復興支援先のIIEの会津木綿を使用したコースターやキッチンクロス、また福島県内の企業のフルーツサングリアの素などを販売。観光拠点の一つとして、多くの人々が集い、憩いの場、交流の場となることを目指しています。

ワインライフにマッチする福島の商品も販売している

試飲コーナー

産業復興支援先の
商品も販売

ふくしま逢瀬ワイナリーの商品ラインアップ

MUSCAT BAILEY A ROSE 2016

大きな寒暖差が、うま味の詰まった農作物を生み出す会津盆地。豊かな山が育む水と、自然の酵素や酵母菌を利用して栽培したマスカット・ベーリーAを100%使い、低温発酵しました。心地よい泡にイチゴのようなフレッシュで甘やかな香りが口いっぱいに広がります。

小森ぶどう園（会津若松市）　**小森 貞治**さん

40年前の減反の際、ブドウ栽培を始め、現在は生食用だけでも約30種生産しています。ブドウを始めた頃から、欧州系のワイン品種には興味がありました。ふくしま逢瀬ワイナリーには大きな期待を寄せています。ワイン品種についても、土地にあったブドウ作りを突き詰めていきたいと思っています。

アートラベルシリーズ

アーティストを目指す方々を応援するため、ふくしま逢瀬ワイナリーではアートラベルシリーズを展開しています。「マスカット ベーリーA ロゼ 2016」と「シードル2016」では、「三菱商事アートゲートプラグラム」の奨学生である、土屋未沙さんのオリジナル版画を使用しています。

土屋 未沙さん

ふくしま逢瀬ワイナリーの商品にはたくさんの人の思いが込められています。皆さんの思いが結集した福島の力強さを絵に込め、私自身も「このワインから福島がもっと元気になってほしい」という思いを込め、一彫り、一刷りに力を込めて制作しました。

CIDRE 2016

福島県産のリンゴ「ふじ」を100%使用。福島県の「ふじ」は開花から収穫までの期間が長く、太陽の恵みをたっぷり受け、じっくり完熟した芳醇な甘味と酸味のバランスが大きな特徴の一つ。農家が丹精込めて作ったふじの実と皮と果汁を一緒に低温発酵しました。フレッシュな香りと果実味を感じるシードルです。

- ロゴマークは果物と種と、アルコールが発酵する形を表現しています。
- ワイナリーの地元「逢瀬：OUSE」の「O」でもあります。
- 福島県の地形もイメージし、中の丸は猪苗代湖を表しています。

大野農園（石川郡）　**大野 栄峰**さん

父の代からリンゴ作りに取り組んできましたが、地域の農業の付加価値向上、6次産業化に志を抱き、震災後に故郷に戻り就農しました。ふくしま逢瀬ワイナリーのプロジェクトは、生産者にも大変ありがたい取り組みだと思います。

OUSE PECHE

福島県産の桃「あかつき」を低温発酵後、銅製釜で蒸留したフルーツブランデーがベースのリキュールです。蒸留により引き出される桃の芳醇な香りや、甘味のある濃厚な果実感と、ハーブのまろやかな味わいにより、一層桃の華やかさが楽しめます。

伊達農園（伊達市）
小野 大樹さん

“毎年1年生”という気持ちで、緊張感を持って桃を栽培しています。おいしいお酒ができるよう、生産者同士で助け合いながら果実の質を高めていきたいと思います。

OUSE POIRE JAPONAISE

福島県産の梨「幸水」と「豊水」を低温発酵後、銅製釜で蒸留したフルーツブランデーがベースのリキュールです。蒸留により引き出される梨の爽やかな香り、みずみずしい甘味、程よい酸味とハーブのまろやかな味わいにより、梨の豊かな風味が楽しめます。

伊藤梨園（郡山市）
伊藤 正且さん

安心安全を心掛け有機栽培しており、品質には自信があります。この事業が長く継続し、福島の発展につながることを期待しています。

販売先からの声

日本橋ふくしま館「MIDETTE」

“福島にはおいしい日本酒が数多くありますが、ワインやリキュールも楽しみ。ふくしま逢瀬ワイナリーは、郡山に長く暮らしていた私から見ても、すてきな新しい名所ができたと思います。お年寄りから子どもまで、誰もが楽しめるような場所に育っていくことを期待しています。”

熊田 絹子さん

OUSE WINERY Fukushima

将来を見据えた取り組み 01

ワイン用ブドウの生産を開始する農家への後押し

当財団と連携協定を結び、ふくしまワイナリープロジェクトに共に取り組む福島県郡山市は、ワインの産地づくりを目指し、ワイン用ブドウの植栽について補助事業を実施しています。2016年度は新規ブドウ栽培農家を公募し、9件の農家を選考して「郡山地域果実醸造研究会」を発足。逢瀬ワイナリーのセミナールームでは醸造用ブドウ栽培をめぐる世界的な傾向を、また醸造タンク室ではブドウの仕込みなどを学びました。その他、各農家が植栽した苗木の生育状況を視察しながら選定のポイントを確認し合ったり、北海道や宮城、山梨のワイナリーやブドウ畑を視察し、ワイン用ブドウ栽培の専門知識を深めました。

スマートフォン等でQRコードを読み取ると、鈴木農園のインタビュー動画をご覧いただけます。
※パケット通信料金がかかる場合があります。

鈴木農園（郡山市）
鈴木 孝子さん　**鈴木 幸子**さん

果樹は全く初めての挑戦。正直分からないことだらけで、研究会の研修はとても心強く、勉強になります。畑で実際に生育状況を見ながら質問ができるので、イメージも湧きやすいです。心配や不安も大きいですが、未知に挑む“わくわく感”を味わいながら頑張ります。自分たちの作ったブドウがどんなワインになるのか楽しみです。

OUSE WINERY Fukushima

将来を見据えた取り組み 02

実証圃場が設置されました

ふくしま逢瀬ワイナリーの隣接地が郡山市により整備され、
垣根資材を設置し約340本のワイン用ブドウ品種の苗木が植栽されました。

一般社団法人 ふくしま醸造所 醸造・栽培責任者
佐々木 宏さん

山梨や新潟、岩手のワイナリーで、ブドウの栽培とワインの醸造に20年以上携わってきました。果樹王国の福島では、どんなブドウを育てることができるのか。実証圃場で、適性を見極めながら、個性あふれる、地元の方々に長く愛されるワインを造っていきたいと思っています。

品　種	本　数
シャルドネ	50
ソーヴィニヨンブラン	89
ピノ・グリ	50
オクセロア	50
カベルネ・ソーヴィニヨン	50
メルロー	50
合　計	339

郡山市農林部　**後藤 吉美**さん

震災以降、除染作業を担当して福島の復興に携わり、2017年春からふくしま逢瀬ワイナリーのプロジェクトに参画しました。郡山をワイン用ブドウの産地に育てていくことを目指し、故郷の再生と復興、地域の活性化に貢献していきたいと思っています。

ふくしまの食材

福島県にはおいしい食材がいっぱい。
ふくしま逢瀬ワイナリーの商品との
マリアージュが期待されています。

郡山さくら鯉

猪苗代湖から安積疏水によって引かれたミネラル豊富できれいな水で育てられた鯉は、全国一の生産量を誇ります。地元では「鯉に恋する郡山プロジェクト」として料理人が創作料理に活用しており、県内外で話題沸騰中です。

里の放牧豚

里山で育った放牧豚はストレスとは無縁。太陽を浴び、農園の野菜、土のミネラル分や鉄分などを摂取し、元気いっぱい育っています。肉質は細やかで程よい歯応えと弾力、コクや香りがあり、さっぱりとした脂が特徴です。

阿久津曲がりねぎ

郡山市阿久津地区周辺で明治時代から栽培されている伝統野菜「阿久津曲がりねぎ」は、夏の暑い時期に「やとい」と呼ばれる植え替えをします。このひと手間が“焼いて良し”“煮て良し”の甘味と軟らかさを生み出しています。

ふるさと納税

2016年９月から、郡山市のふるさと納税に寄附した方への返礼品として、逢瀬ワイナリーの商品も選択できるようになりました。2016年度は、２万円以上の寄付者にシードル２本が送られました。

福島大学との連携講座

福島大学で、「地域論」の一環として、４回にわたりワインに関する提供講義を実施。第１回は、ふくしま逢瀬ワイナリーの事例を中心に、６次産業化としてのワイナリーの可能性について紹介しました。

社員ボランティアによる支援活動

三菱商事は、「現地に行って自分たちにも手伝えることはないのか」との数多くの社員の声を受け、東日本大震災発生直後の2011年4月から、被災地での社員ボランティア活動を継続しています。2016年度末までに約4,500人の三菱商事グループ社員を派遣。ふくしまワイナリープロジェクトに共に取り組む果樹農家や、財団助成先の一つである公益社団法人 sweet treat 311が取り組む「MORIUMIUS」、財団の産業復興・雇用創出支援案件の一つである仙台秋保醸造所の「秋保ワイナリー」でもボランティア活動を行ってきました。

ふくしまワイナリープロジェクトへの社員ボランティア支援

「ブドウ農家」でのお手伝い

開墾

実の間引き

苗木の植栽

「リンゴ農家」でのお手伝い

摘花

葉摘み

収穫

選別

いいブドウを作り、皆さんの気持ちに応えたい

大勢のボランティアさんが来てくれて作業ははかどるし、何より皆さんとの会話がやる気につながっています。財団は、私たち農家にはなかった発想で、果実のお酒造りという新しい道を示してくれました。福島の農家の復興に向け、畑作りで共に汗をかいてくれる三菱商事グループの皆さんの気持ちに応えるため、私たちはいいブドウを作らねばと思っています。

協力農家

橋本農園（郡山市）
橋本 寿一さん

2013年10月 校舎清掃

2014年1月 屋根瓦だった雄勝石スレートを洗浄

2016年3月 水田整備

2016年11月 薪割り

助成先への社員ボランティア支援

子どもたちの複合体験施設「MORIUMIUS」でのお手伝い

当財団は、sweet treat 311が宮城県石巻市雄勝町で展開する学校再生プロジェクトに助成。2013年秋からは社員ボランティアを派遣し、施設改修をはじめ、裏山や林道の整備、家畜小屋作りなどに携わってきました。

産業復興・雇用創出支援先への社員ボランティア支援

仙台秋保醸造所「秋保ワイナリー」でのお手伝い

「秋保ワイナリー」には、2014年秋から社員ボランティアを派遣。ブドウ畑となる土地の開墾、木々の伐採、片付けから始まり、ブドウの苗木の植栽、草刈り、ワインの瓶詰めなどをサポートしてきました。

2014年11月 開墾

2015年4月 植栽

2016年9月 笠かけ

2016年12月 ワインの瓶詰め

学生支援奨学金受給者の声

当財団では、被災により修学が困難となった学生を支援するため、学生支援奨学金制度を設けています。国内の大学生を対象に、2016年度は368名へ支給（1年間）。2011年度からの累計で4,729名に奨学金を給付しました。夢の実現に向かって進む、奨学生の声を紹介します。

「古都の二人果報を探る事」（「ゲッサン」2017年3月号）。2013年11月には「花は夕暮れ」で小学館「第53回GET THE SUN新人賞」の佳作を受賞した

人々の心の癒しに

宮城県石巻市
2016年3月卒業
吉川 皓也さん

震災により思い出の詰まった祖母の家がなくなったり、自宅が床上浸水したりしましたが、三菱商事復興支援財団の奨学金の給付により大学での勉強が可能になりました。

在学中は夢であった漫画家を目指し、美術系の学校ならではの芸術に関する授業から多くのことを学び、刺激を受け、創作に活かすことができました。そして在学中に新人賞を受賞したり作品を掲載できたりと、目標を一つ一つ達成していくことができました。

漫画などの娯楽作品や芸術作品などは、人々の心や内面の部分の癒しになるということを深く痛感し、また絶対的な確信を得ることができました。

このような時間や機会を支えていただいたことに対する感謝と、それに応える形で、この先の自分の夢の実現を成し遂げたいと考えています。

テレビの力で福島の人を幸せに

福島県郡山市
2016年3月卒業
鈴木 那千さん

就職したテレビ局のスタジオにて

東日本大震災で福島県郡山市にある実家が被災しました。地震や津波による甚大な被害を目の当たりにし、大きなショックを受けたことを今でも覚えています。

当時は経済的な面で、家族に迷惑をかけたくないと大学を休学することさえ考えました。そんな中、三菱商事復興支援財団の支援があると知り、給付を受けることができたのは、本当に救いであり、希望でした。ありがとうございます。

おかげさまで無事大学を卒業し、今は、福島県のテレビ局で働いています。今の私の夢は、テレビの力で福島の人を幸せにすること！ また、福島の元気と今を発信し、震災でお世話になった皆さんに恩返しができればと思っています。

消防学校での防火衣着装訓練

市民生活の安全に貢献したい

宮城県石巻市
2016年3月卒業
澁谷 享平さん

東日本大震災で被災し、石巻の実家が床上浸水の被害を受けました。友人も亡くし、当時は本当に本当につらかったです。その時、手を差し伸べてくれたのが三菱商事復興支援財団でした。奨学金を4年間給付していただいたおかげで、両親の負担も減り、私立大学に通い続けることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今私にできることは、消防士として一人でも多くの人を助け、市民の皆さんの安心、安全の生活に貢献することです。そのことに全力を尽くすことが、財団への恩返しになると考えています。震災を通して感じた全てのことを忘れず、日々感謝しながら頑張っていきたいです。

Facts & Figures
2016年度活動データ

● 産業復興・雇用創出支援（2012－2016年度）

岩手県

支援先	概　要	融資額（百万円）
三浦商店 （岩手県洋野町）	岩手県内随一のサバの取扱量を誇る水産加工事業者への支援。	20
長根商店 （岩手県洋野町）	キノコや山菜の加工・販売を行う事業者の工場移転・拡張を支援。2015年5月竣工。	30
ひろの屋 （岩手県洋野町）	洋野町沿岸全域に広がる「うに牧場」で育成される北紫うにのブランド化事業を支援。2016年7月水産加工場竣工。	12.5
たろう観光ホテル （岩手県宮古市）	津波で壊滅的被害を受けたホテルの高台での再建支援。2015年6月「渚亭 たろう庵」オープン。	40
ナカショク （岩手県大槌町）	津波で全壊した工場を2012年再開。財団資金で一括仕入れ体制構築を支援。	40
伊藤商店 （岩手県大槌町）	釜石市に本社を置く水産加工業者の冷蔵施設再建を支援。	50
宝来館 （岩手県釜石市）	本館のリニューアルと、完全に流失した別館の再建を支援。2015年4月完成。	20
海楽荘 （岩手県大船渡市）	大船渡市碁石海岸で人気の民宿「海楽荘」を営む事業者へのホテル新規創業支援。	50
森下水産 （岩手県大船渡市）	大船渡市の水産加工業者の新工場建設支援。2015年2月竣工。	50
太洋産業 （岩手県大船渡市）	大船渡発祥の水産加工メーカー。同社主力商品である鮭フレークの工場再建を支援。2013年3月竣工。	100
キャピタルホテル1000 （岩手県陸前高田市）	産業復興・雇用創出支援第1号案件。気仙沼信用金庫との協働により、津波により全壊したホテルの再建を支援。2013年11月オープン。	100
八木澤商店 （岩手県陸前高田市）	200年以上にわたり陸前高田市で醤油・味噌などの醸造業を営んできた事業者への支援。	31
あんしん生活 （岩手県陸前高田市）	地元海産物を利用した冷凍加工品を製造販売する事業者への支援。	20
カメリアン・プロダクツサービス （岩手県陸前高田市）	2013年10月に起業した飲食店を展開する企業への創業支援。	30
紬 （岩手県陸前高田市）	震災後起業した、地域資源の気仙杉を活用した家具キット等の製造販売事業者への支援。	5

宮城県

支援先	概　要	融資額（百万円）
気仙沼地域エネルギー開発 （宮城県気仙沼市）	木質バイオマスを利用した熱電併給事業への支援。2016年2月本格稼働。	100
気仙沼産業センター （宮城県気仙沼市）	気仙沼魚市場に隣接していた、海鮮市場「海の市」の再建支援。	50
三陸飼料 （宮城県気仙沼市）	気仙沼地域の水産加工業者から出る魚のアラ等を原料として、畜産飼料を製造する事業者に対する支援。	100
気仙沼ケーブルネットワーク （宮城県気仙沼市）	防災放送機能を重視する気仙沼市もバックアップする、ケーブルテレビ事業再建への支援。	50
駅前ストアー （宮城県気仙沼市）	気仙沼市内でスーパーマーケット「クリエみうら」を展開する事業者への支援。	50
ヨシエイ加工 （宮城県気仙沼市）	気仙沼で水揚げされるサメの買い付けにこだわる、フカヒレ加工業者への支援。	60
協同水産 （宮城県気仙沼市）	サメのすり身加工の特許を保有。2012年に事業再開。一部機械の更新を支援。	20
サンフレッシュ小泉農園 （宮城県気仙沼市）	壊滅的な被害を受けた水田地帯での、トマト水耕栽培事業創業を支援。2015年9月竣工。	50
南三陸町社会福祉協議会 （宮城県南三陸町）	津波により全壊したデイサービスの再建支援。町内に2カ所のデイサービス施設を建設。	22
及川商店 （宮城県南三陸町）	4工場を流出し、一つの工場で事業回復に努めてきた。水産加工団地への工場建設を支援。	50
及新 （宮城県南三陸町）	水産加工団地への、地元特産であるメカブの加工工場新設を支援。	50
セッショナブル （宮城県女川町）	東北産の杉などを利用して製造するエレキギターの工房開設支援。2016年3月工房を開設、12月第1弾モデルを発売。	20
アイローカル （宮城県女川町）	地産の素材を活用した手作りせっけんの製造販売事業を支援。若者の雇用増を目指す。	2
浜人 （宮城県石巻市）	十三浜で漁業の6次産業化を目指す事業者を支援。	2
ヤマニシ （宮城県石巻市）	東北最大級の造船所。東日本大震災事業者再生支援機構や地元・七十七銀行が総額100億円規模の金融支援を実行。2014年1月、修繕ドック完成。	100
協働マネジメント （宮城県石巻市）	石巻市での飲食店開業支援。2016年4月リニューアルオープン。	19
ラポールヘア・グループ （宮城県石巻市）	被災地域の美容師に働く場を提供することを目的に起業した美容室チェーンへの支援。	40
桃浦かき生産者 （宮城県石巻市）	カキの6次化事業者へ、日本初の高圧式カキ剥き機導入を支援。2015年5月竣工。	30
大地フーズ （宮城県美里町）	冷凍ハンバーグ等の製造事業立て直しのため、冷凍保管庫の増設を支援。	10

支援先	概　要	融資額（百万円）
村上商事 （宮城県塩竈市）	近海マグロ漁業や冷蔵保管業務を行う事業者への支援。	30
ゼライス （宮城県多賀城市）	東北地方唯一のゼラチンおよびコラーゲン製造販売企業を支援。	50
アップルファーム （宮城県仙台市）	仙台市における障がい者雇用飲食サービス事業への支援。	10
みちさき （宮城県仙台市）	津波により塩害を受けた４ヘクタールの土地に、大規模養液栽培ハウスを新設した事業者への支援。	100
仙台秋保醸造所 （宮城県仙台市）	東北産原料を積極的に活用。交流人口増加への寄与を目指す。 赤とロゼ、シードルに続き、白ワインを発売。	50
GRA （宮城県山元町）	地元農家の方を雇用し、IT技術を駆使した新たなイチゴ栽培に挑戦している企業への支援。2015年６月通年栽培施設をオープン。	50

福島県

支援先	概　要	融資額（百万円）
旭屋 （福島県相馬市）	B-1グランプリ「なみえ焼そば」の加工工場移転を支援。2014年８月竣工。	50
南相馬ソーラー・アグリパーク （福島県南相馬市）	福島県南相馬市に建設された太陽光発電所と植物工場を利用した、子どもたちの職業体験プログラムへの支援。2013年５月オープン。	30
相馬の里 （福島県南相馬市）	南相馬市におけるサービス付高齢者住宅の新設支援。	30
南相馬復興アグリ （福島県南相馬市）	地元関係者とトマト生産施設を2015年11月建設。農業人材育成にも取り組む。	50
小高ワーカーズベース （福島県南相馬市）	避難区域となった南相馬市小高区への復帰を促す活動を展開。 2016年６月ガラスアクセサリー工房開設。	3
いちばん星 （福島県南相馬市）	農家民宿等を経営する社団法人の株式会社化を支援し、持続的な収益事業への成長と雇用増を目指す。	10
会津中央乳業 （福島県会津坂下町）	ワンランク上の乳製品を製造販売。チーズの新ブランド開発を支援し、2015年８月発売。	12
IIE （福島県会津坂下町）	震災後起業した、伝統工芸会津木綿を用いた雑貨商品の製作販売事業者への支援。	7
キャニオンワークス （福島県浪江町）	福島県浪江町で縫製工場を営業していた事業者の、いわき市への工場新設を支援。2014年４月竣工。	50
しらかわ五葉倶楽部 （福島県白河市）	ホウレン草の植物工場とムース食品工場による６次化事業を支援。 2014年12月竣工。	50
什一屋 （福島県いわき市）	福島県富岡町から移転。2014年８月、いわき市でホテル事業再開。	50

● 学生支援奨学金

年　　度	受給者数
2011年度	633名（約　7.6億円）
2012年度	1,072名（約12.9億円）
2013年度	996名（約12.0億円）
2014年度	994名（約11.9億円）
2015年度	666名（約　8.0億円）
2016年度	368名（約　3.1億円）
累　　計	4,729名（約55億円）

● 復興支援助成金

年　　度	助成件数
2011年度	185件（約4.5億円）
2012年度	184件（約4.2億円）
2013年度	48件（約1.2億円）
2014年度	8件（約0.5億円）
累　　計	425件（約10億円）

［三菱商事グループによる社員ボランティア活動］

年　　度	活動回数（参加者数）
2011年度	71回（1,324人）
2012年度	40回（　941人）
2013年度	39回（　735人）
2014年度	38回（　606人）
2015年度	28回（　513人）
2016年度	21回（　404人）
累　　計	237回（4,523人）

2016年度

財務報告

貸借対照表

2017年3月31日現在

公益財団法人 三菱商事復興支援財団

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産			
現金預金	62,792,080	9,460,172	53,331,908
売掛金	1,661,472	3,394,224	△ 1,732,752
未収入金	1,471,683	1,525,724	△ 54,041
原料	639,584	436,364	203,220
副原料	605,351	371,549	233,802
資材	2,397,959	867,021	1,530,938
仕掛品	85,115,263	17,488,445	67,626,818
立替金	0	45,360	△ 45,360
前払費用	2,591,804	2,473,179	118,625
仮払金	0	702,728	△ 702,728
流動資産合計	**157,275,196**	**36,764,766**	**120,510,430**
2．固定資産			
(2) 特定資産			
事業積立資産	434,466,089	396,597,214	37,868,875
出資金	1,761,500,001	1,767,000,000	△ 5,499,999
長期貸付金	225,400,000	197,600,000	27,800,000
敷金	1,621,880	1,621,880	0
建物	518,306,567	536,301,429	△ 17,994,862
機械・設備	118,987,090	131,518,164	△ 12,531,074
建物付属設備	153,113,378	167,589,778	△ 14,476,400
構築物	55,917,087	61,009,253	△ 5,092,166
什器備品	868,636	626,775	241,861
ソフトウェア	2,050,960	0	2,050,960
商標権	1,934,782	0	1,934,782
特定資産合計	**3,274,166,470**	**3,259,864,493**	**14,301,977**
(3) その他固定資産			
建物附属設備	686,370	854,885	△ 168,515
什器備品	257,463	317,348	△ 59,885
敷金	15,500	15,500	0
ソフトウェア	0	910,106	△ 910,106
長期未収収益	3,206,575	2,406,575	800,000
その他固定資産合計	**4,165,908**	**4,504,414**	**△ 338,506**
固定資産合計	**3,278,332,378**	**3,264,368,907**	**13,963,471**
資産合計	**3,435,607,574**	**3,301,133,673**	**134,473,901**
Ⅱ　負債の部			
1．流動負債			
買掛金	4,152,628	1,833,798	2,318,830
未払金	8,380,419	11,599,455	△ 3,219,036
預り金	0	46,047	△ 46,047
流動負債合計	**12,533,047**	**13,479,300**	**△ 946,253**
負債合計	**12,533,047**	**13,479,300**	**△ 946,253**
Ⅲ　正味財産の部			
1．指定正味財産			
指定正味財産合計	**3,362,924,627**	**3,259,864,493**	**103,060,134**
（うち特定資産への充当額）	3,274,166,470	3,259,864,493	14,301,977
2．一般正味財産	**60,149,900**	**27,789,880**	**32,360,020**
正味財産合計	**3,423,074,527**	**3,287,654,373**	**135,420,154**
負債及び正味財産合計	**3,435,607,574**	**3,301,133,673**	**134,473,901**

三菱商事復興支援財団概要

2017年6月30日時点

名　　称　公益財団法人 三菱商事復興支援財団

設立目的　東日本大震災において被災した地域の復興に寄与することを目的とする

事業内容
1. 奨学金の給付
2. 団体（NPO法人や社会福祉法人など）に対する助成金の給付
3. その他、産業復興・雇用創出などに資する事業

役　　員

会長
小林　健　（三菱商事 取締役会長）

副会長
榊田 雅和　（三菱商事 代表取締役 常務執行役員 コーポレート担当役員）

代表理事
小林 建司　（三菱商事 総務部長）

理事
足達 英一郎（日本総合研究所 理事）
上野 征夫　（ドリームインキュベータ 取締役）
大島 仁志　（公益財団法人 民際センター 理事）

評議員
末吉 竹二郎（国連環境計画 金融イニシアチブ特別顧問）
鬼頭　宏　（静岡県立大学学長）
菊地 清貴　（三菱商事 生活産業グループCEOオフィス室長）

監事
蜂谷 由文　（三菱商事 執行役員 主計部長）
藤間 秋男　（公認会計士）

サ イ ト　http://www.mitsubishicorp-foundation.org/

所 在 地　〒100-8086　東京都千代田区丸の内2-3-1
03-3210-9770（代）

［郡山事務所］
〒963-8004　福島県郡山市中町1-22 郡山大同生命ビル10階
024-955-6011

GOLD+ Clear Air Clear Water 環境保護印刷
P13-0128

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC™ C002486